

こうすればよい花が咲く肥料の使い方

三本立て益養の例

	サシ芽	小鉢 3.5~4号鉢	中鉢 5~6号鉢	定植 9号鉢	花芽分化	着蕾・開花期	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
土	 さし芽用土	 育苗用土	 定植用土	 定植用土	 増し土用	 増し土用	 増し土用
乾燥肥料		菊養源3-7-6 スプレー菊の肥料  又は  鉢上げ7~10日後に 3.5~4号鉢=小さじ1杯(3~5g) 5号鉢=大さじ1杯(約10g)	(注)アミノパワーは育苗期は使用不可	菊養源6-6-5 名彩輝  又は  約2週間に1度の間隔 大さじ3~4杯(約50g)	(注1) 管物の場合は菊養源3-7-6がおすすめ 使用量は厚物の半分以下 細管はさらに少なく	<b>止め肥</b> 菊養源6-6-5  大さじ3~4杯(約50g)	★木つくりが不十分で追い込みたい場合 <b>アミノパワー</b>  5~6日間隔で2~3回 大さじ1~2杯(約15~20g) 表土に散布
液体肥料	★さし芽=発根が始まったら1000倍で灌水 <b>みらい</b>  生育全期間で使えます 灌水=500~1000倍希釈 葉面散布=1000倍希釈	<b>アミノPK</b> 花有機  又は  ※9月~10月の追い込みから開花期に使用しても良い 5~7日間隔 灌水=500~1000倍希釈 葉面散布=1000倍希釈(農業混合可)	<b>アミノ液肥555</b> 育生有機  又は  ※葉面散布不可 5~7日間隔 灌水=500~1000倍希釈 葉面散布=1000倍希釈	(注2) 管物にはアミノPK花有機がおすすめ	<b>追い込み肥</b> <b>アミノPK</b> <b>みらい</b>  又は  間隔は適宜 灌水=500~1000倍希釈 葉面散布=1000倍希釈(農業混合可)	<b>花肥</b> <b>みらい</b>  開花時 間隔は適宜 灌水=1000~2000倍希釈	
活力剤	土に活(つちにかつ) ★肥料との混合使用できます(灌水) ★元気に専科と混合使用できます(灌水) ★透水源との併用はより効果的です	★小鉢から定植・開花まで全期間に使用します <b>土に活</b> <b>元気に専科</b>  土を元気にし根の働きを活発に体質強化と生育促進 肥料や水の吸収を良くする 約10日間隔 灌水=500~1000倍希釈 ※葉面散布不可	<b>元気に専科</b> 葉色素を増し光合成を高め生育促進 病気や害虫の被害を少なくする 約10日間隔 灌水=500~1000倍希釈 葉面散布=1000倍希釈	元気に専科 ★透水源と混合するとより効果的です ★肥料との混合使用できます ※灌水か葉面散布かは肥料の指定に合わせる	★生育全期間に使用します。 <b>鉄力アクア</b>  葉緑素を増し光合成を高め生育促進 「元気に専科」に準じた使い方できます 灌水=1000倍希釈		
肥料調整剤	<b>透水源</b> <b>排水性を良くし根張向上</b> ●土の攪拌性を抑え水のしみ込みをよくし土中に均一に水を拡散する。 ●水の透水性がよくなり根が元気になり、根ぐされが出にくくなる。 ●根の活力が増し肥料の吸収が高まり生育がよくなる。 ●水掛けや土つくりの水分調整に効果的です。 ●サシ穂の水上にも効果的です。	<b>エストール</b>  肥料の与え過ぎや根の活力低下などで培養土にたまった肥料の除去 まわしかけ=500倍希釈を2~3L その後=水5~10L 掛け流す <b>使い方の基本</b> エストールは全生育期間でご使用いただけます		<b>ピーケー・マグ(PK+M)</b>  葉色が濃くなったたれ気味になって来た等の症状が現れた時 大さじ1杯(10~15g) 表土に散布 <b>使い方の基本</b> PK-M	<b>ピーケー・マグ(PK+M)</b>  開花期に入る前に余分なチッ素分を消化させる 大さじ1杯(10~15g) 表土に散布 <b>PK-M 大さじ1杯を2~3回</b>		
その他	<b>透水源</b>  ★サシ穂の水上げ 2000~3000倍(1時間~2時間)	★水掛け時3000~5000倍 ★液肥に混合3000~5000倍				<b>こくなある</b>  ※9月中旬~10月中旬に1000倍で4~5回灌水	